

カルメル

靈性センターニュース



2022年1月

382号

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

【フランシスコ教皇 回勅『兄弟の皆さん』11】

しかし、後退の兆しが歩みに表れています。乗り越えたとみなされていた時代錯誤な対立に火がつき、内向きで、憎悪のたぎる、恨みがましい、攻撃的なナショナリズムが再燃しています。さまざまな国で、多種多様なイデオロギーに影響された挙国一致の考えが、仮定にすぎない国益の保護を装って、新たなかたちの利己主義と社会的感覚の喪失を生み出しています。ここから思い起されるのは、「どの時代でも、過去の世代の努力と成果を自分のものとし、それをさらなる高みへ到達させる必要があるということです。それが歩む道です。善は、愛、正義、連帯と同じく、一挙に達成されるものではありません。日々かち取るべきものです。」



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	30
キリスト教放送局 FEBC のご案内	32
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



宇治カルメル会修道院 聖堂



第三卷

第四十六章 辛辣なことを言われた時には、神により頼む

1 主

《子よ、しっかりと立って、私に信頼しなさい。言葉は言葉にすぎない。それは空気のなかを飛ぶけれども、岩を傷つけられない。自分が悪いと知ったら、快く改めなさい。自分にやましいところがなければ、神のためにそれを喜んで受けるようにしなさい。重い荷に耐えられないあなたにとっては、辛辣な言葉を忍ぶぐらいは、まだ軽いことである。そんなささいなことが、なぜそれほどあなたにはこたえるのか？それはあなたが、まだ肉の奴隷で、必要以上に他人を気にするからである。あなたは軽蔑されることを恐れ、過失を注意されるのをいやがり、弁解の言葉を探している。

2 心配しない

もう少し自分を反省しなさい。そうすれば、あなたのなかにまだ世間が生きていて、人に気に入られようとする空しい望みを、捨てきっていないことに気づくであろう。さげすまれ、短所を非難されるのを嫌っている間は、あなたはまだ真に謙虚な者ではなく、まだ世間に執着があり、世間もあなたのうちに「十字架につけられて」(ガラテヤ 6・14)いない証拠である。しかし、私のことばを聞きなさい。そうすれば、あなたは、何千人の言葉さえ気にならなくなるであろう。人間の想像しうるかぎりの悪口があなたに浴びせかけられても、それを聞きのがして、一本のわらくすほどにも思わなかったら、あなたは何一つ損害を受けない。あなたはそのために一本の髪の毛さえ失うことはない。

3 神がおゆるしになった

しかし、潜心を知らず、神に心を傾けていない人は、たやすく侮辱の言葉に動揺する。しかし、私にすべてを任せ、自分勝手な判断を慎む人は、少しも他人を恐れない。すべての秘密を知り、それを裁くのは私だからである。私はその事の次第を知り、侮辱する者とそれを忍ぶ者とを知っている。その侮辱は私の摂理によって、「多くの人のひそかな思いが明らかにされるために」(ルカ 2・35)出たものである。私は罪のある者と、罪のない者とを裁くが、その前にひそかに、双方を試そうとした。

新しい年にあたり主の祝福をお祈り申し上げます！

わたしは新しい年の扉に座っている天使をみた
そこで

安全が完全に保障されている新しい年を踏み出せるように
「わたしに光をください」と 彼に願った

すると天使は言った：

「闇夜に外に出て 神のみ手に お前の手を置きなさい
それがお前にとって 一番良い 一番確かな道だ」

新年は「神の母」の祝日ではじまります！

神がマリアを選び、

無原罪の恵みを得て 神の母とされたことは
まったく無償のたまもの。

神は ただ ご自分の中からあふれ出る

「自らを与えたい」望みに従われたにすぎません。

神から溢れ出るもの それは愛であり

神のうちにあって

広がってゆこうとする神の愛の力を

受け取る器、つまり人間の側には

どのような基準をも設けることはできません。

神ご自身が

ご自分の僕（しもべ）への小ささに

身をかがめられるのです。＊ 福者マリ・ユージェヌ神父 ocd



神の母の祝日にあたり、神から溢れ出る慈しみの愛の深さ、広さを
あらためて感謝します。

この慈しみの愛をさらに深く信じ、信頼し、委ねて
生きる新しい年の日々でありますように。



伊従 信子(いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

＊ 『わたしは神をみたい いのりの道をゆく』 聖母文庫、聖母の騎士社

創造主への賛美（49）

くのり 彰

「創造主への賛美」について長々と書いてきたが、結局は神への愛と自己愛の問題に収斂し、純粹に神を愛し、その愛と一つとなり、すべての人を等しく愛することが求められていると思われる。

…一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい』。このふたつにまさる掟はほかにない。」（マコ 12・28-31）

この箇所については、いろいろなことが言えるが、テーマに即して言えば、「創造主への賛美」は、隣人ぬきには可能でないということになる。言い換えれば、神を愛しているが、隣人は愛することができない（愛することができない人が何人かいる）というのであれば、いまだ神を純粹に愛しているとは言えないということである。

実際、律法学者は、たくさんある律法の中でどれが第一か、と聞いているのだが、その問いに対する答えとしては、『申命記』6章4-5節の「シェマー、イスラエル」の第一の掟だけで十分のはずであった。しかし、イエスはこれに続けて、第二の掟（レビ記 19章 18節）として隣人愛を挙げられ、「この二つにまさる掟はほかにない」と断言している。マタイでは「律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている」（22・40）とあり、分厚い聖書の中核は、神への愛と隣人への愛の掟に集約されるということになる。

ルカ福音書では、律法の専門家がこの二つの掟は挙げたことになっており（10・27）、「隣人とはだれか」という問題から、「善いサマリア人」のたとえが導き出されている。

実に、レビ記の箇所は、ゆっくり味わうべきものである。

復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（164）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

クリスマスのお祝い①

十字架のヨハネは、クリスマスのお祝いになると、とにかく自分を忘れてしまいました。バエサから、グラナダから、あるいはセゴビアから、イエスの地へとかけつけました。クリスマスの祝祭日のいくつかの話は有名になり、修道士たちの間でしっかりと記憶されています。

バエサの料理人であった聖エウフェミアのホアンは、こう回想しています。「彼は私たちの主の、至聖なる秘跡の祝祭日を、大いなる信心をもって、また修道士を楽しませ、感動させるような聖なることを、意図的に行ない、お祝いしていました。たとえば、その市の神学校の校長であった時のことですが、ご聖誕祭のある夜、くだんの聖なるヨハネ修父は、二人の修道士を、修道服のままで、一人は私たちの聖母に、他の一人を聖ヨゼフにさせ、その修道院にあった小さな回廊を、宿を探すようにして、歩かせました。マリアとヨゼフを演ずる二人が言ったり、答えたりすることについて、修父は、修道士たちに大きな慰めとなる聖なる考えを引き出しました。このようにして彼は祝祭日を祝いました。というのもこの証人はそれを見、教会で祝われているとき、人々はそれらの祝祭日に感化され、信心深くなったからです」。

アロンソは、グラナダでの別のクリスマスイヴを描いています。その時、ヨハネ修士は、「輿の上に神の母を置かせました。輿は肩にかつがれ、主の僕（訳注：ヨハネのことか）と修道士たちをお供に、回廊を通り、その中にあった門までたどり着くと、長旅をしてやって来た、お産間近い婦人とその夫のために一晩の宿を乞うのです。宿を乞うため最初の門にたどりつくとき、聖人が作った次の歌詞を歌いました。

神のみ言葉を
身ごもったおとめは、
旅をしてはるばるやってきます
どうか彼女に宿を与えておくれ

(P. 九里訳)

主の公現の祭日

(マタイ 2 : 1 - 12)

主の公現の祭日は顕示、あるいは力を示すということを意味しています。それはイエスが始めてユダヤ人以外の異教徒に示されたことです。「公現」はイエスが神の御子として全ての人類に現わされ、と同時に神の自己啓示を示しています。

福音の文章では、三人の占星術の学者が新たに生まれた幼子、救い主イエスを訪問したことが述べられています。彼らの名はガスパール、バルタザール、メルキオールで、黄金、乳香、没薬を贈り物として持ってきました。ガスパール、バルタザール、メルキオールは三人の王として歴史上に残されています。彼らのご降誕のあらゆる場面で欠くことのできない部分であり、最も重要な人物であります。三人の学者たちは東の方から、今では中東からやって来ました。その地で彼らは占星術師だったでしょう。この職務において彼らは特別すばらしい新星をクリスマスの頃見つけました。

三人の学者たちが幼子イエスへ捧げるために持ってきた贈り物の黄金、乳香、没薬には、非常に象徴的な意味があります。黄金は、イエスの神性と同時に「ユダヤ人の王としてのイエス」という王権も表わしています。乳香は、司祭職の象徴、「犠牲と自己奉獻」の象徴です。没薬は、イエスの死と遺体の葬りの意味を先取りしています。

学者たちが飼い葉桶に眠るイエスを訪問したことは、私たちの生涯を通してのイエスへの巡礼の旅の象徴と見ることができます。主の公現の祭日は、学者たちの姿のように、自分自身をキリストへの旅の民として見るように招いています。本日の福音では、学者たちが邪悪なヘロデ王と出会ったことを語っています。ヘロデ王はイエスの誕生を憎しみと怒りで反応し、イエスを滅ぼそうと計画しました。反対に、学者たちはイエスに会い、崇敬し、自分を捧げたい待望に満たされました。

本日の福音は、心を持ってくる人をキリストがどれほど豊かにして下さるかを教えています。ミサごとに自分の心をイエスに捧げ、聖なる祝福を受け、イエスを崇敬し、礼拝しましょう。新年にあたって、高慢で不純な考えや、利己的な行い、怒りを抑制するように決心しましょう。隣人に対するイエスの愛、平和、喜びの道具となりましょう。キリストの光をまわりの人々に輝かせましょう。

(Sr. Paulina)

主の洗礼

(ルカ3：15－16、21－22)

「民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。」

イエスは民衆と共に洗礼を受けられました。ご降誕の時、貧しい馬小屋で飼い葉桶に寝かされたイエスは、大人になってからも一般民衆と共に歩まれます。イエス自身にとってはたぶん必要のない洗礼者ヨハネからの洗礼を受けられたのは、「人々と共にある神＝インマヌエル」との自覚に基づいています。イエスは人類の一員として、率先して悔い改めの洗礼を受けられたのです。

すると、イエスの上に天が開き、聖霊が降って来ました。さらに「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が天から聞こえました。イエス、聖霊、御父の顕現です。降誕節の最後の日に、三位一体の神秘が示されます。イエスは御父から愛された子であり、御父からの愛の霊を注がれたメシアです。

イエスは民衆と共に洗礼を受けたのですから、この開かれた天は民衆の上にも開かれています。そして、イエスが受けた御父の言葉と愛の霊を民衆も受けることができるようになったという神秘が表されているのです。「その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる」のです。

ヨハネの洗礼は水の洗礼で、悔い改めを意味しますが、イエスの洗礼は天からの神の愛の注ぎです。神の愛を受けるための最初の一步が悔い改めだといえます。イエスはそれを私たちの一員として率先して行ってくださいました。

何もかも同じになってくださり、闇と死の陰の地に住む私たちの上に天の扉を開き、私たちを神の子にしてくださるためにお生まれになり、十字架を背負われたイエス様にどこまでもついて行きましょう。

(今泉健 神父)

年間 第2主日 (C)

(ヨハネ 2 : 1 - 12)

「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」

降誕節の大きなお祝いは終わり、今日から年間が始まります。本日の福音書では、時が満ちると御父である神の約束が果たされることが明らかにされています。そしてイエスのアイデンティティ、すなわちイエスがどんな方であり、その使命は何なのか、について語られています。

ガリラヤ地方のカナの婚姻において、イエスは最初の奇跡を行いました。水をぶどう酒に変化させたイエスの行為は、イエスの救い主としての働きに関するとても大きな象徴的な意義を持ちます。この奇跡は、メシアであるイエスが神の完全な姿の現れだと示しています。主は、私たちのために受肉したみことばであり、これは降誕祭で既にお祝いしたことです。御父である神の愛と力は、イエスのうちに働いています。これは、ヨハネによる福音書が記録している、イエスが行った7つのしるしのうちの最初の奇跡です。イエスは、清めに用いる石がめ6つに入った水を非常に上等なぶどう酒に変えました。いつくしみ深いイエスは、人々をぶどう酒の不足や対外的な恥から救ってくれます。イエスの時はまだ来ていませんでしたが、マリアの願いを聞き入れてカナで最初の奇跡を行うことでご自身の栄光を現し、弟子たちは信じました。こうして主は、弟子たちの信仰を強められたのです。この奇跡は、永遠の救いの宴を象徴しています。

マリアも救いの歴史の中で重要な役割を担っています。マリアは、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と召し使いたちに告げました。つまり、我が子が新婚夫婦やその家族が本当に必要なことを行ってくれると信じていたのです。教会は、最初の奇跡に関するこの福音箇所を通じて、マリアが神の母であると同時に私たちの母でもあると私たちに思い出させてくれます。マリアは、神の恵みの仲介者ですので、私たちは母マリアを通じてイエスに近づかなければなりません。私たちが行う全てのこととあらゆるお祝いに、イエスとマリアをいつも招き入れましょう。そして「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」という母マリアの言葉にも耳を傾けましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第3主日

(ルカ 1 : 1-4、4 : 14-21)

年間第3主日は、「神のことばの主日」。私たちに語られる「神のみことば」を大切に心に留めながら、思い巡らしながら、神様とともに過ごしてゆくことができますように。

今日の福音は、ルカ福音書冒頭部分、そしてイエスが荒れ野で誘惑を受けられた後、公生活の初めの箇所が語られました。福音書の中で「・・・敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので・・・」と書かれています。新約聖書の使徒言行録の冒頭には、「テオフィロさま、わたしは先に第一巻を著して、イエスが行い、また教え始めてから、お選びになった使徒たちに聖霊を通して指図を与え、天に上げられた日までのすべてのことについて書き記しました。」…とありますので、ルカ福音書、使徒言行録が同一の著者による続き物であることがわかるでしょうか。

イエスは公生活に入られました。“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られ、評判がその地方一帯に広まったとありますので、イエスが人々に恵みに満ちた力強い言葉を語り、福音書に書かれていませんが「しるし」奇跡を行われたのかも知れませんね。その様に様々に思い巡らしながら、みことばを読み進めていっても良いでしょうか。

安息日に会堂に入れ、聖書朗読のためにお立ちになられたイエスさま。ユダヤ教の決まりを守り、安息日を大切に、神のみことばを大切になさる姿があるでしょうか。その様な中で、預言者イザヤの巻物を渡され、開いた箇所をお読みになられました。

「主の霊がわたしの上におられる。主がわたしに油を注がれた。わたしを遣わされたのは、主の恵みの年を告げるため。」この言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現したと話し始められます。聖書の言葉はイエスを通して実現してゆきます。そして神の国の福音が告げ知らされ、父なる神はイエスを通して救いの御業を行われます。

会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた様に、私たちも私たちの目をイエスに注ぎましょう。またイエスの語られる言葉に耳を傾けましょう。イエスを眺め、イエスから学び、イエスの様に、神への、人々への愛に生きることができますように。私たちのうちに神のみ旨ご計画が実現してゆきますように。

(Fr. 古川利雅)

年間 第4主日 (C)

(ルカ4 : 21 - 30)

「預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ」

今年はルカによる福音書を朗読していきます。今日の福音書では、主がナザレで最初に宣教した時に侮辱を受けたことが描かれています。この福音書は、新約聖書の著者で唯一、異邦人であるルカによって異邦人向けに記されたという特徴があります。今日の朗読箇所でも異邦人に対する配慮が見られます。

イエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と会堂で話し始められました。一同は、イエスの口から出る恵み深い言葉に感嘆しつつ、イエスの新しい立場を受け入れ難く感じました。なぜ、自分たちの町に来る前に、ライバルである別の町で宣教したのだろうか？と。最終的にイエスは彼らから暴力的な扱いを受けました。これは、イエスが人々に対し、視野を広げて神の恵みが異邦人にも注がれることを認めるよう、促したためです。異邦人も神の子どもであり、救い主が築く新しいみ国にもあずかることができるという考えは、ユダヤ人の大半にとって忌まわしいものだったので、イエスの呼びかけに激怒したのです。会堂の人々は、救いをもたらす神の愛というよい知らせを拒絶し、イエスを死に追いやろうとしました。イエスは、不思議な力で彼らの手から逃れましたが、これは罪、憎しみと死に対する主の最終的な勝利の前触れです。

私たちは、この地上の生活が永遠のいのちへの準備期間であるとキリスト教の教えから学んでいます。いつの日か、地上の住まいから離れて天の住まいに向かいます。もちろん私たちは、会堂の一同のように、キリストにここまで真正面から反抗して崖から突き落とそうとは思わないでしょうが、日々の隣人とのかかわりの中で、イエスとその教えをそっと脇に押しやり、自分の好き勝手に振る舞うことがどれだけたくさんあることでしょうか。今日の第2朗読では、「たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、愛がなければ、無に等しい」とあります。いつまでも残るのは信仰・希望・愛の3つであり、この中で最も大いなるものは、愛です。

(Sr. Paulina)

糸巻き棒からペンへ(71)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

その本(『聖ヒエロニムスの手紙』)には、祈りについてたくさんのお話が語られていました(第三部は、「隠遁の状態あるいは観想生活について」という題でした)。彼女と一緒にいる人々は、すべてはあつという間に過ぎ去り、天獄と地獄は永遠であることについて、幼い時、黙想したことをテレジアに思い起こさせました。こうして、彼女は修道女になることを決心したのです(『自叙伝』3,5)。

黙想の発見

アビラのご託身修道院の修練院では、良い祈りの環境にめぐり逢いました。実際、カルメルの『会則』は、「昼も夜も祈りにとどまり、神のことを黙想し、祈りに目覚めているように」(8番)招いています。『会憲』は、「修道女は、熱心に詩編や聖務の歌唱を学び、身につけるように努めること。すべての事柄について彼女たちは教えられるべきである」(BMC9,494)と命じています。聖女はラテン語を知らなかったにもかかわらず、この時以来、典礼の聖務日課が彼女の生活の多くの時間を占めるようになりました。次のように述べているので、おそらくその時、彼女は、スペイン語訳の福音書に初めて出会ったのでしょう。「私はいつも福音書の言葉が好きで、それはたいへんよく書かれた本よりももっとよく潜心させてくれました」(『完徳の道』21,4)。

三年後、別の病気のために、彼女は一時的に修道院を後にしました。姉の家に行く途中、彼女の叔父は再び、良書を彼女に手渡しました。まず第一に、聖グレゴリオ・マーニョの『ヨブ記注解』です。そこでは、聖書の中に祈りの良い模範を見出しました。つまり、ヨブは、自分の病気を介して神と語り、その苦しみを述べ、自分の言葉で神に語りかけているのです。次の本は、フランシスコ・デ・オスナの『第三念禱初歩』です。これは、彼女の人生の土台となりました。というのも、これは、彼女に心の祈り(念禱)の道を開いてくれたからです。最初のページから、そこに見出したものに、彼女は引きつけられました。「兄弟たちの間にも母と子の間にも決してないほど緊密で確実な、神との友情や交わりが、この世においても可能である」とあったからです。(P.九里訳)

いのちの言葉 1月

わたしたちは東方でその方の星を見たので、
拝みにきたのです。

(マタイによる福音書2・2) 1

今月のみ言葉は、マタイによる福音書にのみ記されています。幼子イエスを探しながら遠方からきた占星術の「学者」たちの口から出た言葉であり、彼らの神秘的な来訪が描かれています。

彼らは数人でしたが、小さな光の背後にある普遍的で偉大な光、すなわち、すでにこの地上にお生まれになった「王」を探し求めて、東方から長旅を志したのです。彼らについて多くは語られていません。しかし、このエピソードは示唆に富み、キリスト者の生活をさらに深めるヒントを与えてくれます。

今回のみ言葉は、今年の「キリスト教一致祈禱週間」²に合わせて、中東の諸キリスト教会の方々が、提案して下さいました。一致祈禱週間は、キリスト者が互いに心を開いて受け入れ合うことはもとより、同じキリスト者として神のご計画に従い、この地上のすべての民と人々のために、共に神の愛の証人となるたいへん貴重な機会でもあります。

わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みにきたのです。

中東の諸キリスト教会の方々は、今回のみ言葉を提案するにあたりこう語られます。「…ユダヤの空に現れた星は、長い間ずっと待ち望まれた「希望のしるし」を意味し、『学者たち』を真の『王』である救世主が生まれた場所に導きますが、彼ら(学者たち)のうちに、この地上のすべての民の存在を見ることができます。星は贈り物であり、全人類に対する満ち溢れる神の愛をあらわしています。…『学者たち』は、神のご計画であるひとつになった民の存在を示します。彼らは、遠い国からやってくる異文化をもつ人々をも代表し、生まれただけの王を一目見たい、知りたいという思いに駆られ、ベツレヘムの洞窟にともに集い、王を称え、王に贈り物を捧げるのです。このように、神は、世に一致を望まれるので、世のキリスト者は『一致のしるし』となるよう呼ばれています。たとえ文化や人種、言語は違っていても、キリストを探し求め、キリストを礼拝したいという思いは、すべてのキリスト者に共通するものです。

ですからキリスト者の使命は、この星のように、神に飢え渴く人類をキリストのもとに導いて、すべての民がひとつになるべく、神の道具となることです」³。

「学者たち」の上に輝く星は、すべての人のためのものです。何よりも、愛によって照らされる良心の内にその星を見つけ、それに導かれながら日々の生活の中で神と兄弟姉妹に出会えるでしょう。そして、その出会いの豊かさを互いに分かち合うこともできるでしょう。

わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みにきたのです。

神を敬うとは、神のみ前で、惨めで脆(もろ)い自分をありのままに認め、こんな自分には神の赦しと憐みがいつも必要だと自覚することです。そして、他の人

に対しても赦しと憐みをもって対することです。この姿勢は、神にのみに向けられる「礼拝」という言葉のうちに完全に表されます。

キアラ・ルービックは語ります。「神を『礼拝する』とはどういうことでしょうか？それは、神にのみ向けられる姿勢です。神のみ前で『あなたはすべて』、『あなたはご自身そのものでおられます』と言うことです。人生において、私は、神を知るという偉大な特権を頂いていますが、…それは言い換えれば、…『私は何者でもありません』という体験でしょう。それを言葉で言うだけではありません。神を礼拝するには自分を無くしさらに、己の中で、そして、世にあって、神に勝利をもたらすことを意味します。ところで私は無であり、神は完全なお方だと実証するために確かな方法があります。しかも肯定的な方法です。つまり、自分の考えを無くすには、ただ神のこのことのみ考えること、そして、福音に示される神の思いを自分のものとするということです。そして、今この瞬間に示される神の思いを実践すればいいのです。不適切な愛情を消滅させるためには、神への愛だけを心にもって隣人を愛し、その人の悩み、問題、苦しみ、喜びをともに分かち合うことです。私たちがいつも「愛」であるなら、自然に自分が無になっていることに気づくでしょう。そして、私たちは自分の無を生きることで、神がすべてであることを人生で体験し、神への真の礼拝に向かい一層、心を開いていけるでしょう」⁴。

わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みにきたのです。

中東のキリスト者の方々は次のように結んでいます。「学者たちは、救世主に会い礼拝した後、夢で警告されたように、『別の道を通して自分たちの国へ帰って行った』、これと同様に、共通の祈りによって培われた私たちの交わりは、新しい道を通して、これからの生活、教会や世界に戻るよう私たちを促してくれるに違いありません。…今日、福音に奉仕するためには、人間の尊厳、特に最も貧しく、最も弱い立場にある人、周縁に追いやられている人々の尊厳を守らなければなりません。…教会の新しい道は、私たちが犠牲と勇気と大胆さをもって模索していく、目に見える一致への道です。こうして日々、『神がすべてにおいてすべてとなられるためです。』（1 コリント 15・28）⁵というみ言葉が実現されるでしょう。」

わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みにきたのです。

レティツィア・マグリ

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1 このみ言葉は(マタイ 2・1), (マタイ 2・2)を合わせたものです。

2 キリスト教一致祈禱週間は毎年1月15日～18日に開催されます。なお、中東の諸教会の方々からの文書の引用部分の訳文は公開されていないため、ここでは私訳しています。

3 <http://www.christianunity.va/content/unitacristiani/it/news/2021/spuc-2022.html>

4 キアラ・ルービック、「いのちの言葉」2005年

5 コリントの信徒への手紙一 15.28 参照

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2021年12月6日

フランスのリジュール大聖堂の鐘、良き知らせを告げる



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



(UNESCO 国連教育科学文化機構)

リジュールの聖テレジアは、聖テレジア生誕150周年記念(1873-2023)に参加するUNESCO国連教育科学文化機構の2022年/2023年カレンダーに、掲載されることになりました。

リジュールの聖テレジアが、UNESCOが提唱する文化、科学と教育の価値観を通じてキリストへの道を開いてくださるよう祈ります。

跣足カルメル修道会の総長顧問会は前回の会議で、会全体に対しこれからの6年間、聖女の文献を読むことや、教会レベルで聖女の生誕記念を高揚することを、提案する可能を見定めるよう話し合いました。

(翻訳：小宮山延子)



2021年 秋号 No.382

- 信仰生活(再)入門(14) 聖書に学ぶ祈りの道(6)
 —「見ること」と「祈ること」
 片山はるひ
- 道の霊性(7)—「熱心の道」と「キリストの道」
 田畑邦治
- 「聖なるものとなる」よう呼ばれています
 —アピラのテレサ教会博士授与五十周年記念に
 伊従信子
- 孤独という美しい生き方
 森 みさ
- キリストの説かれた 幸いなる道(3) 九里 彰
- 霊的研究会講義録(13)—聖書・祈り・愛について
 奥村一郎



2021年 特集号

- 「向こう岸に渡ろう」
 —パンデミック後の選択—
 向こう岸に渡ろう
 —四旬節：パンデミックの中での過ぎ越し
 中川博道
- 人類は新たに生まれねばならない
 九里 彰
- 神のいやしを行うイエス・キリストをみつめて…
 —フランシスコ教皇さまの連続講話
 「この世界をいやす」についての考察
 松田浩一
- 同じ舟に乗る者たちとして
 —『つながり』の霊性を求めて
 若松英輔
- 何も咲かない寒い日—今を問う
 大瀬高司

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
 各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を
 下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。
 〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

書籍案内



パンデミック 後の選択

教皇フランシスコ

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ

判型：四六・並製

ページ数：80 ページ

価格：本体 500 円（税込 550 円）

ISBN：978-4-87750-224-9

出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

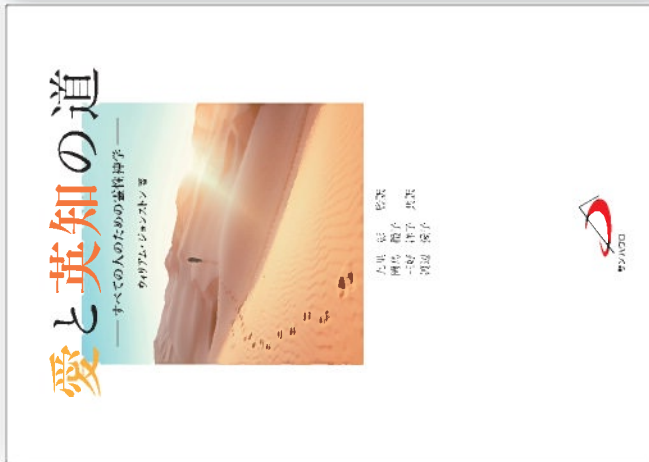
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音 Ⅰ
- 第2章 福音 Ⅱ
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギ
- 第10章 英知と（愛）

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちに〉
- 第15章 花嫁と花知
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典札暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

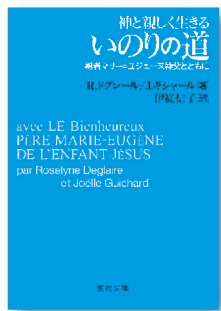
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



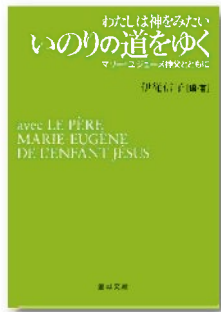
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

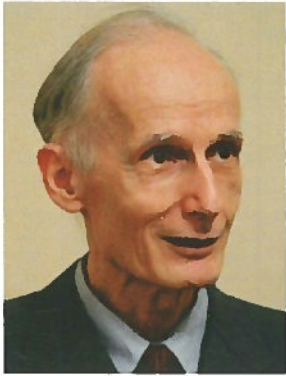
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

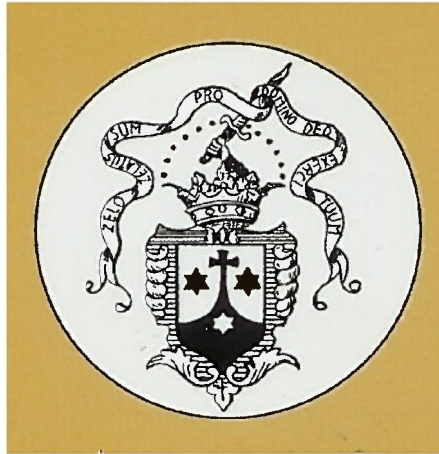
1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2022年～)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

4月14日(木)夕食～4月17日(日) 朝食 《講話なし、各食3付》

【クリスマス】

12月24日(土)～25日(日) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) 大瀬高史 神父

1月 8日～ 9日

9月 3日～ 4日

3月12日～13日

11月 5日～ 6日

4月23日～24日

6月 4日～ 5日

2023年

7月16日～17日

2月25日～26日

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

1月19日 2月16日 3月16日 4月20日

5月18日 6月15日 7月20日 9月21日

10月26日 11月16日 12月21日

2023年 1月18日 2月15日 3月15日

- ・キリスト教霊性入門(木曜日10時～16時 昼食付) 松田浩一神父

1月13日 2月3日 3月10日 4月7日 5月12日 6月2日

7月7日 9月1日 10月13日 11月3日 12月8日

2023年 1月12日 2月2日 3月2日

- ・一泊黙想会（土曜日16時～日曜日16時） カルメル会士

1月29日～30日	11月19日～20日
3月19日～20日	
5月14日～15日	2023年
7月23日～24日	1月14日～15日
9月17日～18日	3月18日～19日
- ・奉獻生活者のための黙想会（初日17時～最終日朝食） カルメル会士

8月 1日(月)～10日(水)	
8月16日(火)～25日(木)	
12月27日(火)～2023年1月 5日(木)	
- ・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

3月26日(土)～27日(日)	
-----------------	--
- ・召命黙想会(男女)40歳まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

11月11日(金)～13日(日)	
------------------	--
- ・カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで（初日16時～最終日16時）
カルメル会士

2月26日(土)～27日(日)	2023年
4月 2日(土)～ 3日(日)	2月 4日(土)～ 5日(日)
7月 9日(土)～10日(日)	
10月29日(土)～30日(日)	
- ・特別黙想会(初日20時～最終日16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

5月27日(金)～29日(日)	
11月25日(金)～27日(日)	

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の靈性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思ひます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2021年 4月10日（土）～11日（日） 16時～翌日16時

6月12日（土）～13日（日） //

10月9日（土）～10日（日） //

12月11日（土）～12日（日） //

2022年 2月26日（土）～27日（日） //

会費：¥5000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル青年黙想会

イエスを求めて



日時 : 2022年3月26日(金)16時～27日(日)16時

場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

対象 : 青年男女(16歳～35歳まで)

定員 : 9名

費用 : 一般 5,000円 学生 3,000円

締切 : 2022年3月19日(金)

指導 : カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電話 : 03(5706)7355

FAX : 03(3704)1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp



宇治カルメル会 黙想会案内 (2022年度～)

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

2/5～6 3/12～13 4/9～10 4/9～10 6/4～5

9/17～19(2泊) 10/29～30

2023年

1/14～15 2/18～19

【聖書深読】(午前10時～午後4時) 中川博道神父

1/29 3/19 4/23 5/28 6/25 10/8 11/19

2023年

1/23 2/25

【水曜黙想会】(午前10時～午後4時) 中川博道神父

1/12 3/16 5/18 6/15 7/13

9/21 10/26 11/23

【ゴールデンウィーク黙想会】 中川博道神父

4/29(金)夕食～5/6(金)朝食

参加期間は、全日通しでもどの曜日からでも自由です。

【カルメルの霊性】(午後5時～午後4時) 中川博道神父

幼きテレジア 10/1(土)～2(日)

十字架の聖ヨハネ 12/17(土)～18(日)

【奉献生活者の黙想】(午後5時～午前9時) 一般可

1/14(金)～22(土) 中川博道神父

7/23(土)～8/1(月) 中川博道神父

8/4(木)～13(土) 松田浩一神父

9/5(月)～14(水) 中川博道神父

10/13(木)～22(土) 中川博道神父

12/27(火)～1/5(木) 中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】

*<聖週間を祈る>

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

*<クリスマス>

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時~午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

2021年秋冬 AMラジオ放送 毎夜9:30~
番組案内 インターネット放送 毎夜9:30~
www.febcjp.com (毎日更新)

日

月

火

水

木

金

土

夜9:30~

全地よ主をほめたたえよ

主日礼拝取材番組

- [第1]日キ教会 高知旭教会
- [第2]日基教団 石動教会
- [第3]ホーリネス教団 東京中央教会
- [第4]日基教団 小岩教会
- [第5]日基教団 久万教会

[第1,2,5]夜10:27~

神からのメッセージ

グレゴリオ聖歌
橋本周子
聖クレゴリオの家
宗教音楽研究所所長

[第3,4]夜10:27~

聖歌を味わう

[10~12月] テゼ
[21.1~3月] 正教会

[月~金] 夜9:30~

FEBBC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

恵子の郵便ポスト

FEBBCメイン・パーソナリティー
吉崎恵子

夜9:48~

聴く信仰

「いのち」をいただく
御言葉黙想
山内十束
カトリック・御受難修道会
宣道黙想の家司祭

新 夜9:47~

ダビデのひこばえの到来

竹森満佐一
日基教団元教師

夜9:47~

嘆きに応える神の御言

金田聖治
日キ教会
上田教会教師

夜9:47~

Session - イエスのTuneに合わせて

早矢仕宗伯
「NCAMイエスの風」教師
塩谷達也 ゴスペル
長倉崇宣 シンガー

夜10:14~

Echo of Voices

長倉崇宣

夜10:14~

主に向かって歌おう

飯 靖子
日基教団 藍南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:11~

五十嵐ジュンの Contemporary Christian Music

関野和寛
日本福音ルーテル教会教師
チャプレン

新 夜10:14~

主よ、絶望を担うキリストよ

小林和夫 ホーリネス
東京聖書学院教会教師

夜10:28~

御足の跡を

小池与之祐
日基教団 神の愛
キリスト伝道所教師

夜10:28~

FEBBC Sprout!

長倉崇宣

夜10:28~

ふらっとトーク

中川信一
長倉崇宣

夜10:28~

聖書を開こう

山下正雄
RCJメデア
ミニストリー代表

[第1]夜9:37~

イエスとの対話の旅 - 現代霊性神学講座

中川博道 カトリック・カールメルケル会宇治修道院司祭

[第1]夜10:25~

外からの「声」 - FEBCC HANGOUT!

雨宮 慧 長倉崇宣
カトリック東京教区司祭、上智大学神学部名誉教授

[第2]夜9:37~

イエスのことば、その根(再)

雨宮神父の福音書講座
雨宮 慧 長倉崇宣
カトリック東京教区司祭、上智大学神学部名誉教授

[第3~4]夜9:37~

生きるとは、キリスト

小林和夫 ホーリネス
東京聖書学院教会教師

[第3~4]夜10:20~

MeguのCCM insight!

植松 功
[21.1~3月] 正教会
マリア松島純子

夜9:30~

ボン・ヘアッアアー著 『共に生きる生活』を読む(再)

江藤直純
ルーテル学院
大学前学長

夜9:53~

Kishikoのひとりじゃないから

コーヒー
ブレイク・インタビュー

[第4~5]夜10:04~

交わりのことば

新 夜10:31~
[10~12月]

夜10:31~

聖歌を味わう

[21.1~3月] 正教会
マリア松島純子



諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2022年 — 祈りの集いのご案内

イエス様のように祈る

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月13日 「御旨を行う」（詩編40：9）
2月10日 「私が父の家にいるのは」（ルカ2：49）
3月10日 「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」（ルカ3：21）
4月 7日* 「イエスはひざまずいてこう祈られた。父よ、
御心なら、この杯を」（ルカ22：42）
5月12日 「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」（マタイ11：25）
6月 9日 「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」
（ルカ6：12）
7月14日 「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します」
（ヨハネ11：41）
8月 休み
9月 8日 「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ23：46）
10月13日 「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて」（ルカ22：19）
11月10日 「イエスは天を仰いで言われた。父よ・・・」（ヨハネ17：1）
12月 8日 「天におられる、私たちの父よ・・・」（マタイ6：9）



予約は前日の16：00まで

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ	1/23(日) 9:30-17:00	Fr植栗	★ニコラバレ修道院 (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
札幌フォローアップ	1/27(木)9:00- 28(金)18:00	Fr植栗	場所については受付 担当までお問合せを お願いします。	本間 攝子 080-3260-1864 不在時は、山崎 有紀 090-4720-2157
札幌サダナ I	1/29(土)9:00- 30(日)18:00	Fr植栗	同上	同上
フォローアップ 新 I	2/6(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	★ニコラバレ修道院 (四ツ谷) この日の ミサはありません	来間(くるま) 裕美子※
サダナ I	2/10(木)17:30- 13(日)1600	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (小金井市桜町)	同上
フォローアップ 新 I	3/6(日) 6:30-16:00	サダナ チーム	★ニコラバレ修道院 (四ツ谷) この日の ミサはありません	同上
サダナ II	3/17(木)17:30- 21(月・祝)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (小金井市桜町)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

★変更になる可能性があります。

●入門 C への参加…入門 A または入門 B を終えていること。

●フォローアップおよびリピーターへの参加…
サダナ I を終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2022年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき . . . つぶやき . . .

新年あけましておめでとうございます。

『霊性センターニュース』読者の皆様が、新しい、しかし難しいこの時代を心安らかに、祝福のうちにお過ごしになられますよう心よりお祈り申し上げます。

先日、電車で、新書版の本を熱心に読んでおられる八十代半ばと思われる老紳士を見かけました。ちらっと見えた本の帯には、「進化の時代に問う。学ぶことの価値」と書かれていました。戦中戦後を生き抜いてこられたと思われるひとりの方が、いまだ学びつづけなければならない時代を目の当たりにしたような思いでした。

「人類の歴史上、これまでの30年のテクノロジーの変化は急速だったが、これからの30年でさらに加速する」（日経2019年元旦号）といわれる時代、まさに、「今日、人類史の新しい時代が始まっており、深刻で急激な変革が次第に全世界に広まりつつある」（現代世界憲章4）ことを実感する日々です。

このような時代の中で、あらためて聖書の始まりであるアブラハムのことを近年たびたび考えさせられます。メソポタミア文明の中葉期、洗練された文明世界であったカルデアのウルを出発した75歳のアブラハムが受けた指示が、今一度わたしたちに響いてくる時代のように感じています。

主はアブラムに言われた。

「あなたは生まれ故郷

父の家を離れて

わたしが示す地に行きなさい。」（創世記12章1節）

現在、世界人口は78億7千万人余り。産業革命以来の200年で、8倍近い増加を経験し、しかも、人類全体が10倍近く豊かになってきたプロセスが、ある意味でわたしたちの「生まれ故郷」になっています。また、そうした中で、受け継いできた〈生き方〉としての「父の家」があります。これらのものをいったん離れて、「わたしが示す地に行きなさい」と呼びかける主に注意深く聴きながら、歩むことが、本当の意味で、新しい年を祝っていくことになるのだと思います。

みなさんのお仕合せを祈りつつ

(Fr. 中川博道 o. c. d.)

